

## 令和5年度 第2回遠軽地区地域公共交通活性化協議会 議事

日時場所	令和5年9月29日金曜日 10時 メトロプラザ 小ホール
<b>1 開会</b>	
	17名の委員中16名出席で会議が成立していることを報告
<b>2 会長挨拶（遠軽町長）</b>	
	<p>遠軽地区地域公共交通活性化協議会の開催にあたり、御多忙の中、御出席いただき感謝申し上げます。</p> <p>公共交通を支える現役世代の人口減少やマイカー普及により公共交通の利用は減少し、それに伴い公共交通の維持のための財政負担がどんどん増加し、大変厳しい状況となってきました。</p> <p>2024問題で労働時間の規制等、運転手の確保が難しい状況となってきました。その中で、地域の実態を把握し、地域公共交通を取り巻く課題も踏まえて、3町が連携を図り持続可能な交通システムの構築が必要と考えています。本会議では3町の課題を見出して計画策定に向けた方向性を協議いただきたいと思います。</p> <p>今までもそれぞれの町でバス、ハイヤー等の協議を行ってきておりますが、その中でも大きな課題「JR問題」があります。自治体だけでは対応できません。自治体を跨る場合は北海道。JR問題につきましては、北海道庁としっかり連携を取って進めてまいります。JRとバスは密接な関連ができますので、申し添えしながら本会議を開催したいと思います。よろしく願いいたします。</p>
<b>3 議事</b>	
事務局説明（遠軽町企画課主幹）	
【報告第1号】監査員の指名について	
	協議会規約に基づき、湧別町 PTA 連合会の遠藤委員、佐呂間町自治会連合会の村岡委員の2名を監査員に指名した。
<b>承認</b>	
事務局説明（遠軽町企画課主幹 湧別町企画財政課主幹 佐呂間町町民課長）	
【報告第2号】遠軽地区における現況・問題点・課題整理について	
	<ul style="list-style-type: none"><li>・湧別町・刈田町長：補足すると湧別町では町内全てをカバーしているとは言い難い。オンデマンドを含めて検討していきたい。スクールバスでは、低学年はスクールバス、高学年は民間バスとして、共存を図っていきたい。財政負担が課題である</li><li>・佐呂間町・武田町長：ふれあいバスの導入経緯と現状を説明。町内の移動は概ねカバーできている。町外との連携が課題である。町外線は土日運行などの要望はあるが、運転手不足で毎日運行ができていない。町内線でも運転手不足で削減せざるを得ない</li><li>・遠軽町・佐々木町長：交通課題は、町内と町外に分けて考えないといけない。交通によって地域のあり方が変わる。三町の着地点をどう抑えるかだと思う。</li><li>・運輸支局・山本首席：2024年問題で運転手不足が深刻化しており、バスの減便が相次いでいる。トラック輸送も厳しい状況に置かれている</li><li>・オホーツク振興局・原主査（代理出席）：昨年広域計画を策定し、施策を推進しているところである。運転手不足については、振興局が主催して就職説明会を実施した。JRについては、R5.10より来年度に向けて検討が始まる予定である</li><li>・遠軽高校 PTA・大西会長：JR ダイヤと連携した町内バス、特に冬期は接続が問題になっている。三町の移動を考えると、それぞれの高校の特色を生かして、地区内の生徒が学びやすい、選択しやすい環境を繋ぐことも必要ではないか</li><li>・湧別町 PTA 連合会・遠藤会長：部活動で合同チームが増えてきて、それぞれの移動が課題になっている。</li></ul>

- ・湧別町・刈田町長：現在はスクールバスを活用している  
**承認**

事務局説明（遠軽町企画課主幹）

【議案第1号】遠軽地区における地域公共交通計画の方向性（案）について

**可決**

※意見が次の議事だったので、そのまま意見交換へ

#### 4 意見交換

佐呂間町 武田町長

- ・今ある資源をどう活用するか。紋別市の北見日赤へのバスは。いずれにしても若佐地区が重要な交通ポイントになる。
- ・鉄道路線が無い中で、来訪者の利便性を考慮すると、紋別 - 網走間の観光路線バスや、もっと広域的なバス移動も視野に入れていく必要がある。

湧別町 刈田町長

- ・遠軽地区の医療は、従来から遠軽厚生病院を軸にしてきたが、今後は北見日赤も視野に入れる必要もあろう
- ・遠軽、湧別からのアクセスを生かすためには、若佐地区が交通拠点として有効かもしれない
- ・佐呂間町 - 湧別町間のアクセスが現状ではない

遠軽町 佐々木町長)

- ・北大の岸先生の話のを伺うと、札幌から遠軽に移動する人の1割がJRに乗ってくれるだけで、収支は大きく改善する、という話を伺った
- ・国鉄湧網線のときもそうであったが、道民は乗って残すということができない

佐呂間町 武田町長)

- ・かつては自立して生活ができなくなり、都市部に転出するケースが多かったが、今は退職して余力のあるうちに都市部に出るケースが散見されるようになった。流出を食い止めるためにも交通の確保が必要

為国アドバイザー総括

- ・運転手不足の対応については、バス会社だけでなくハイヤー会社を活用したい。計画の中でなんらかの方向性を出す必要
- ・紋別線・遠軽線は2社で別々に運行しているが共同運行できるといい。飛行機でいうコードシェア
- ・生活圏は時とともに変化する
- ・バスの収支率については20%あればいい方
- ・佐々木町長の1割が利用という話があったが、バスも年間4回乗ってくれればいい
- ・あまりにも自分に合わせた利便性になりすぎている
- ・バス待ちも楽しめるような環境があれば問題にならない
- ・地域をどうするという視点は交通計画に必要

#### 5 その他

事務局・林より、今後の策定スケジュールについて説明。特に質問はなし

#### 6 閉会